

「市川家住宅を知ろう～愛知の民家と市川家住宅～」

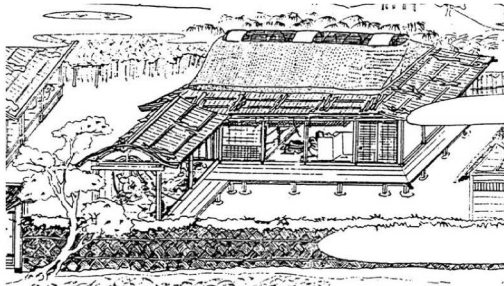
名古屋市立大学 大学院芸術工学研究科 溝口 正人

1. 民家って何？：近世身分社会の反映としての民家

◆民家成立略史

中世：庶民の住まい⇨小屋。土間+土座：わら敷(+寝間、ナンド)

近世⇨庶民(資本蓄積による独立)⇨家格表現(イエ)としての住まい



茅葺き

草葺・木造床

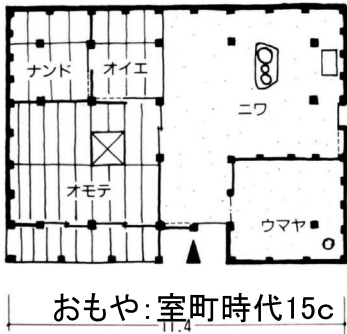


館：領主

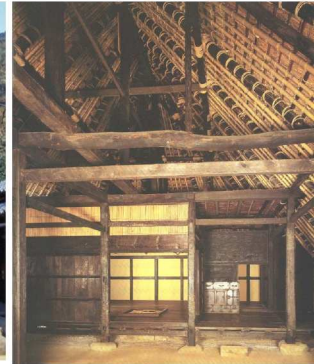
小屋：被官

(新編相模国風土記稿)
相模国牧野村佐藤五郎助屋敷(江戸中期)

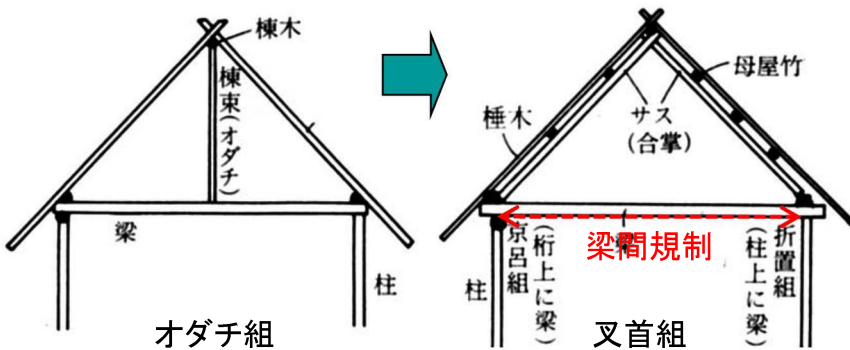
漆間時国宅／法然上人絵伝(鎌倉時代末)
主屋



箱木家住宅(15c)最古の民家



◆民家の構造と規制



オダチ組：民家では古い架構。愛知県ではほとんど残らない。e.g.熊谷家住宅

又首組：屋根裏利用しやすい。e.g.合掌造

梁間規模が建物の大きさを決める。⇨近世においては梁間が規制を受ける。

◆民家の間取り

3室広間型⇨四間取(田の字形)へ変化

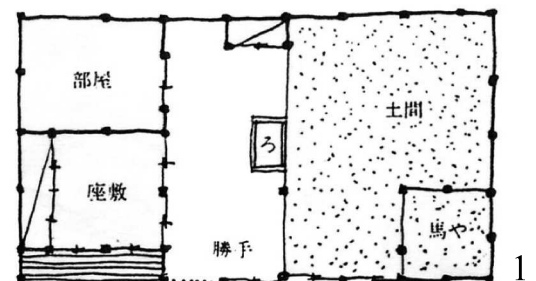
⇨建築規制と機能分化の結果

座敷(接客空間)の導入⇨建築規制：窓の大きさ, 建具, 畳敷

⇨立派な材は使えない。長押は庄屋クラスで可

⇨畳敷きの座敷が浸透するのは、幕末～明治

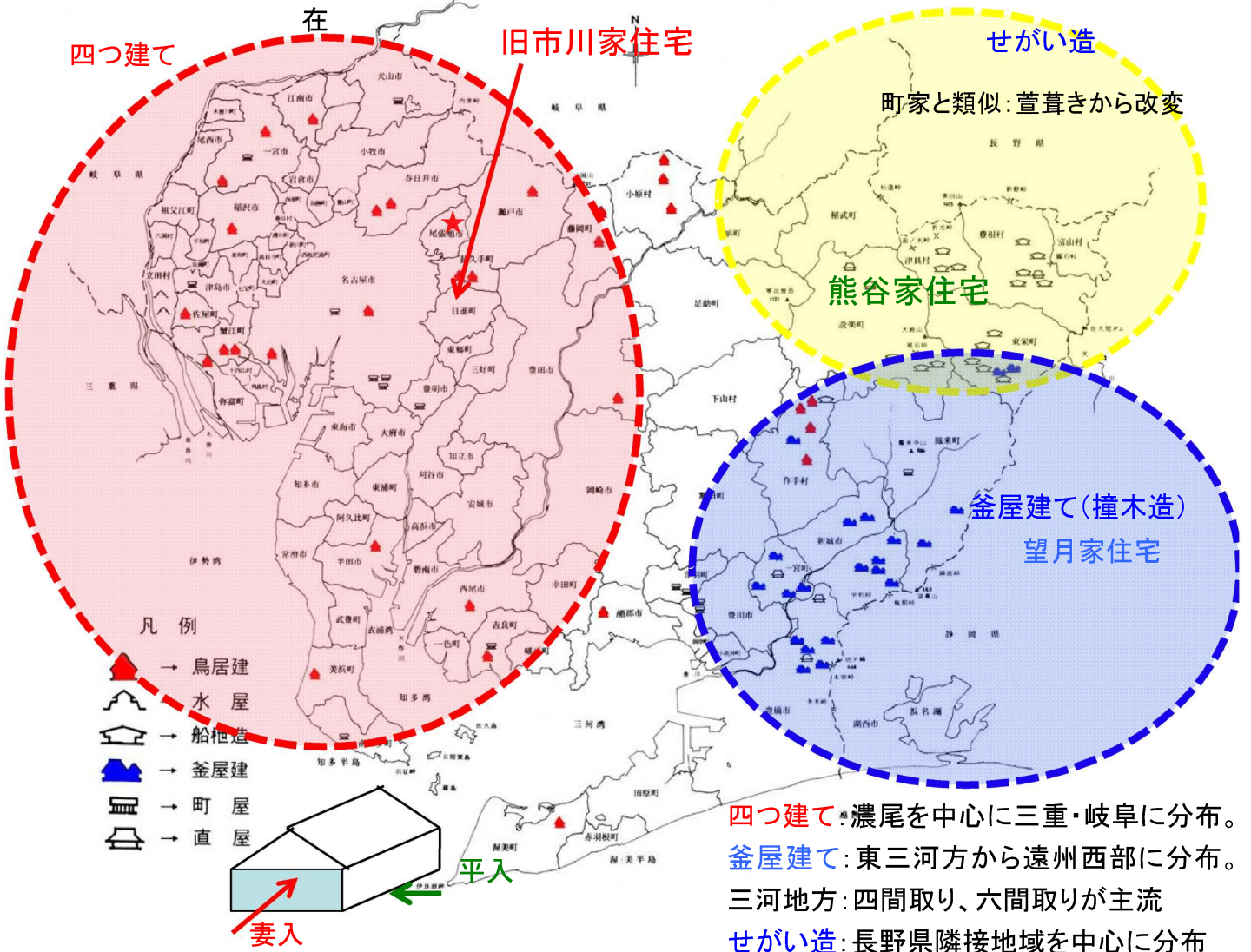
3室広間型：市川家もこの間取りです⇨



2. 愛知の民家 地域と生業

◆様々な民家

- ・農家: 四つ建ては尾張を中心に分布。セガイ造り・釜屋建ては偏在
- ・町家は共通性: 東海道の往来? ⇔ 足助では妻入りと平入りが混在



尾張: 服部家住宅(弥富)



せがい造: 夏目家住宅



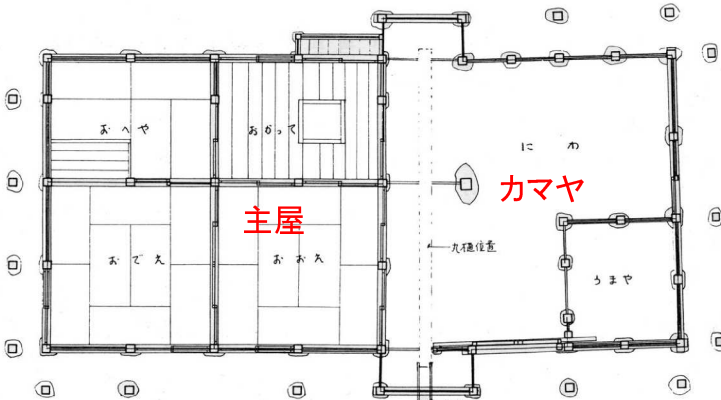
三河: 瓦葺き: 市川家住宅(安城)



釜屋建て: 望月家住宅

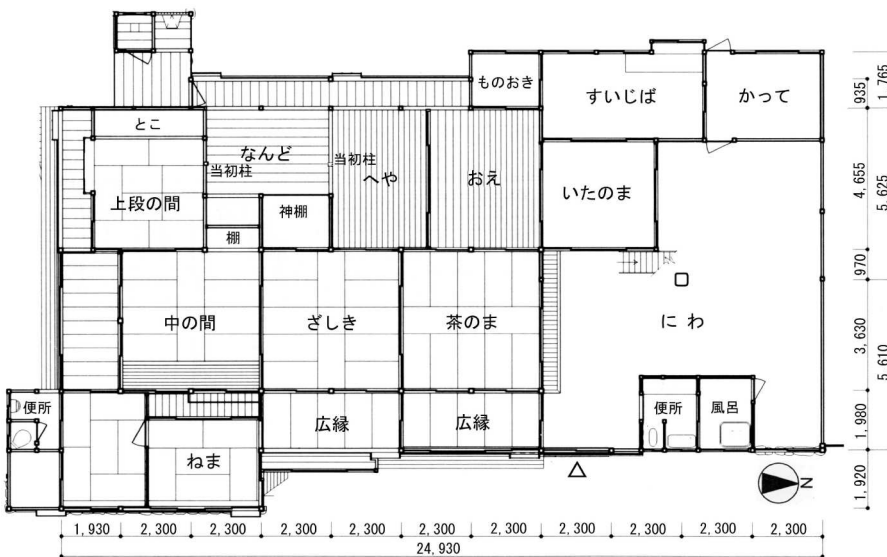
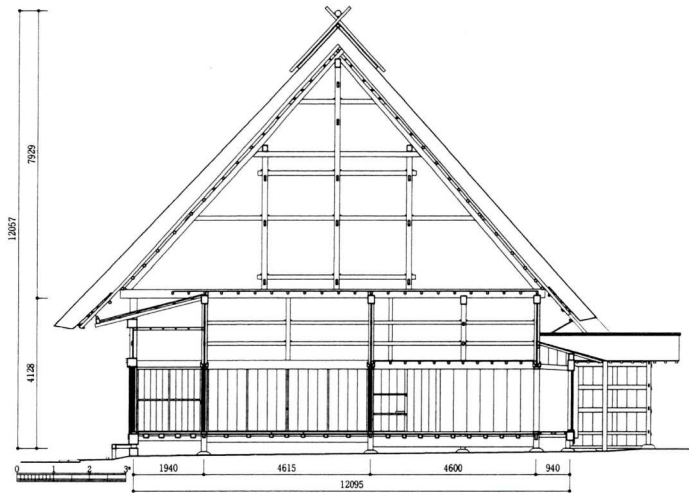
◆釜屋建て(撞木造り)望月家住宅(江戸後期・新城市):分棟型は太平洋側に分布

「椰子の実」島崎藤村M34:柳田国男がM31に伊良湖滞在。流れ着いた椰子の実の話が元ネタ



◆東日本に繋がる架構の大規模農家

熊谷家住宅:寛保4(1744)? :一族郎党の屋形のなごり?



六間取りをベースにした大規模な平面



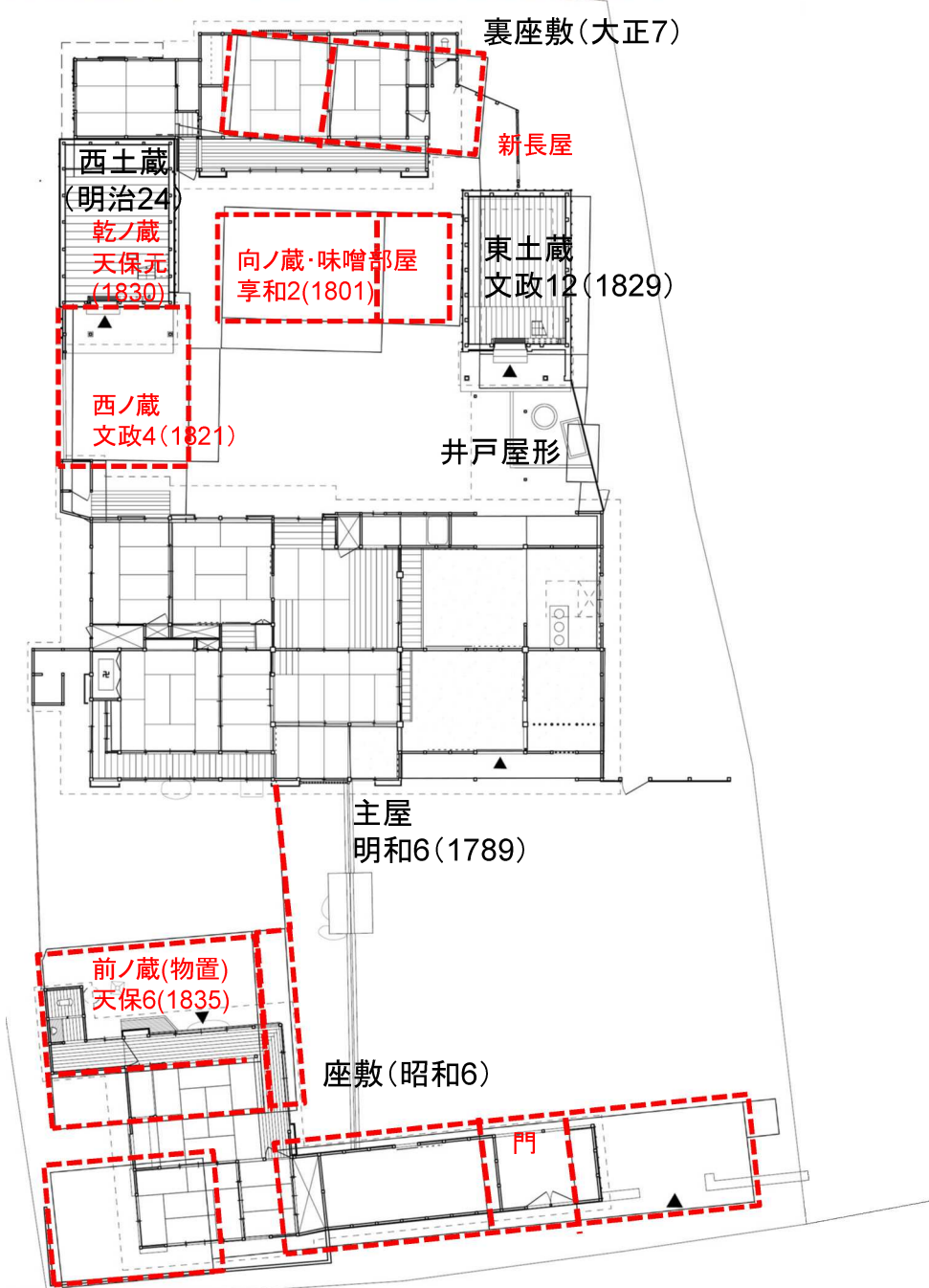
柱と梁でがっしりと組んだ空間

3. 旧市川家住宅の概要

尾張地方の民家に特徴的な四つ建ての発達過程を示す。庄屋の格式を伝える大型民家。

◆建物概要

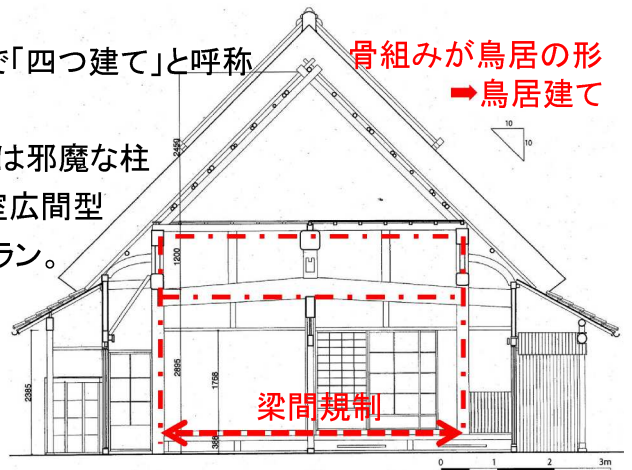
- ・享保年間に植田の大庄屋として建てられる。
- ・明和6(1769)の市川藤蔵家成立時に移築
- ・梁間3間、2間続き座敷。階層的にも最上位の構成。
- ・窓や造作の形式など、よく旧材・旧状を残す。



4. 旧市川家住宅にみる四つ建て民家の特徴

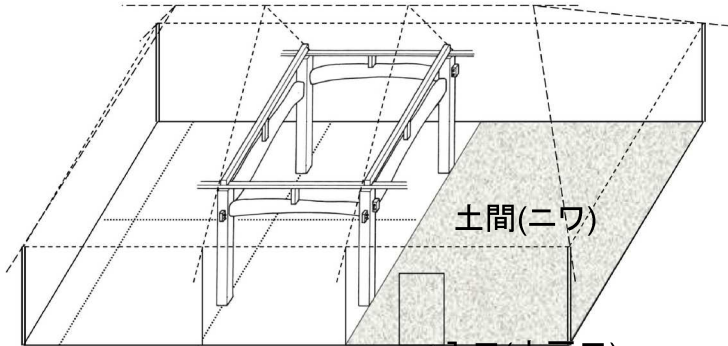
◆四つ建てとは

- ・古い構造形式に準じて成立した近世農家。尾張東部で「四つ建て」と呼称（同様な架構は全国的には「鳥居建て」と呼ばれる）
- ・特徴：4本の独立柱で軸部を固める構造⇨間取りとしては邪魔な柱
- ・間仕切りの少ない平面（かつては土座もあった。）⇨3室広間型
- ・プランは一般的な3室広間型に復原＝あたりまえのプラン。
- ・半間もしくは1間入った位置に主柱。大黒柱はない。



◆尾張地方の四つ建ての典型となる架構

- 梁間規制：庄屋格：2間半・百姓2間～1間半
- ⇨制限をクリアしつつ規模を拡大
- ⇨市川家の3間は異例：大庄屋の遺構のため



独立して立つ4本柱
⇨四つ建て：柱と梁でがっしりと組んだ空間

◆尾張地方の上層農家の典型となる平面

- 座敷2間構成：座敷8畳＋次の間4畳
- ⇨南向きの床の間（押板）・長押・素朴な欄間

◆中京間(6尺内法制)の普及を示す住まい。

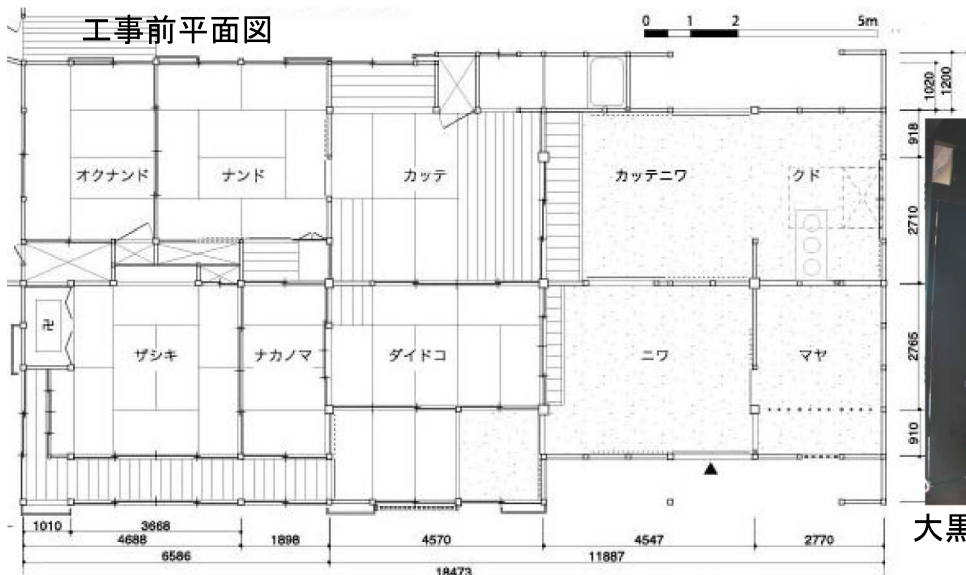
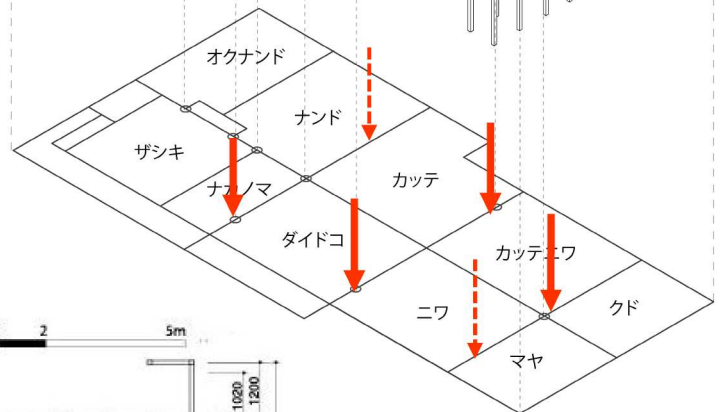
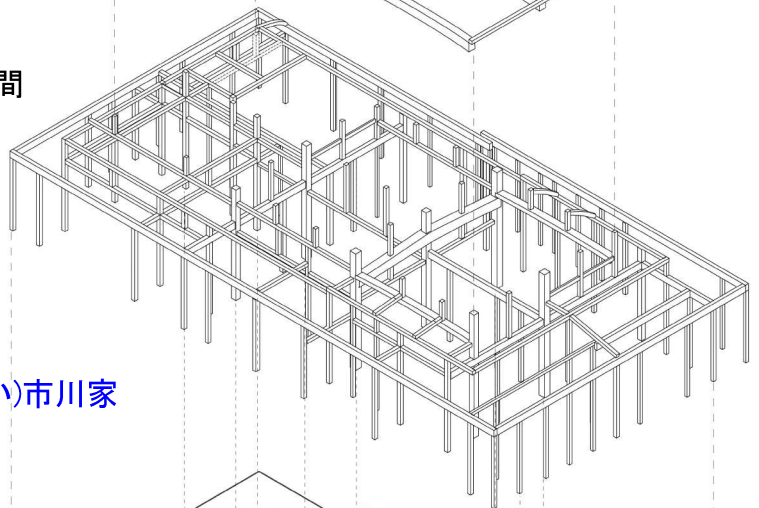


服部家主屋：承応2(1653)：真々制

⇨離座敷：安永9(1780)以前：中京間

愛知県：三河以東は真々(田舎間)

⇨尾張・伊勢北部は中京間



大黒柱のない開放的な空間(松原家)

5. 県下の四つ建て民家を味わう

◆四つ建て民家系の現存遺構

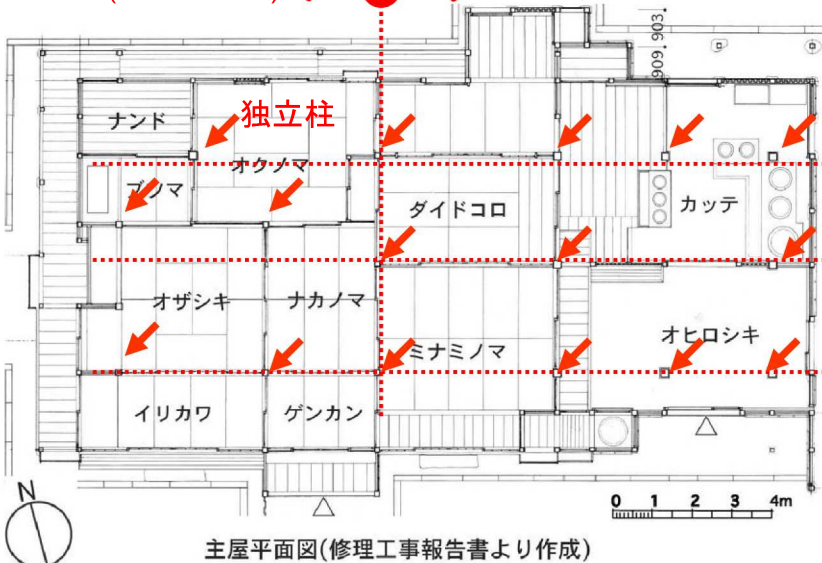
- 服部家住宅 国指定文化財 弥富市荷之上石仏419。承応2(1653)
- 旧山内家住宅 県指定文化財 豊田市藤岡町飯野仲之下(移築)。1730頃?・素朴な間取り
- 旧平岩家住宅 無指定・公開 豊田市陣内町(移築)民俗資料館。18c?・曲がった柱に注目
- 旧石黒家住宅 市指定文化財 岩倉市大地町野合(史跡公園内)
- 新見南吉養家 市指定文化財 半田市平和町:
- 旧小林家住宅 無指定・公開 春日井市(市民文化センター内)。明治初年・梁間2間の小規模農家
- 旧松原家住宅 無指定・公開 尾張旭市城山町(移築)。文化13(1816)・庄屋格民家の典型
- 山口家住宅 国登録文化財 海部郡蟹江町蟹江本町。18c後期・梁間2間半。蟹江の大庄屋
- 旧市川家住宅 国登録文化財 日進市。明和6(1769)
- 笈家住宅 国登録文化財 名古屋市中村区。小規模農家の事例。幕末・梁間2間の小規模農家

◆四つ建ての系譜

服部家住宅 国指定文化財 承応2(1653)弥富市荷之上石仏419⇨隔絶して古い

- ・中世から近世へ: 柱を抜く技術と平面の変化
- ・近世農村社会と家作制限: 庄屋・本百姓・水呑百姓/家格による制限の数々
- ⇨梁間規制・開口部規制 ⇨制限をクリアしながら規模を拡大させるには?

間延び(1間6尺2寸) ← ⊕ → 6尺の真々制



主屋平面図(修理工事報告書より作成)

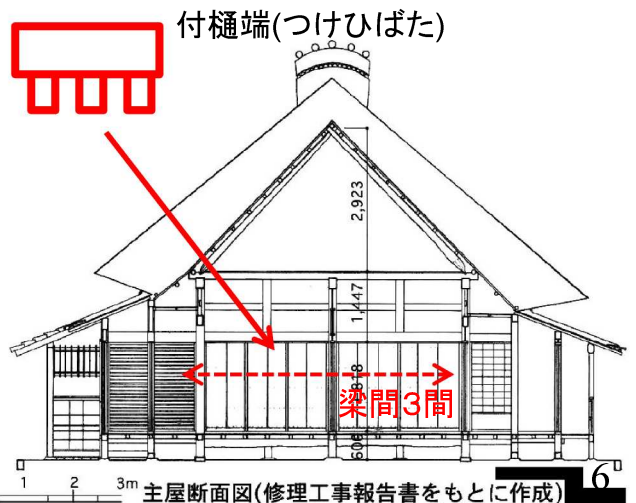
■服部家住宅の架構: (グリッドで列柱)

⇨発掘で出てきている遺構に類似⇨室町時代の最古級の民家は同様な形式

■服部家住宅と市川家住宅の類似点

⇨ザシキ・ナカノマの2室構成・付樋端(つけひばた)を用いる古式(名古屋城本丸御殿にあります)

⇨北面の建具が閉鎖的な腰窓



大黒柱はない